

第五十二回 例を上げて説明しますと・・・その2

例えば右横の首スジにホクロがあるとしますと大腸の一部分に異常反応があるものです、大腸は首の左右又は後方の筋肉に血流障害の反応をするものです。

又、この場合は右ですので右の腕のひじと手首の間の外側の筋肉又は右足のヒザと足首の間の前面の筋肉の一部分だけが血流障害をおこしている為に一部分だけが押すと痛みの反応があるものです。

当然、右の首スジのホクロと大腸の右側の一部分だけが押すと痛みを感じるものです。

また頬の一部分にシミがあると膀胱です。膀胱の一部分に血流障害をおこしているものです。この場合左の腕のヒジの内側又は、左の足のヒザの後側の一部分を押すと痛みを感じるものです。

当然膀胱の一部分を押すとそこだけが痛みを感じるものです。シミそのものを押しても痛みを感じないものです。又、眼の外側と耳との間にシミ・ホクロがありますと胆嚢の血流障害をおこしているものです。

手の親指のつけ根と手首の間の膨らんだ筋肉を拇指球と申します。胆のうの血流障害があると、

この拇指球をおしたり、外斑拇指の足の裏が痛くなったりするものです。

顎関節症を治した後で、上下の全体の歯の咬み合せのバランスをとると体全体の血流がよくなるだけでなく脳脊髄液の流れが一瞬によくなるものです。血液・脳脊髄液の流れが良くなる事により、人によってはホクロが消えたり、薄くなったりしたり押すと痛みの反応も消失するものです。脳脊髄液は頭蓋骨内にあプールの水のように脳と骨とがぶつからない様にクッション作用するだけでなく脳と首の骨、背骨、背骨の下骨である仙骨との間の骨の中を満たしているものですが、第3脳質で作られた脳脊髄液がおしりの真中の仙骨迄1分間に健康な人は11往復するといわれているものですが死の直前の人は4回位でその波動が弱くほとんど感じられない位だといわれています。

脳脊髄液の流れが悪い為に各背骨が前方にズレをおこすこととなります。脊骨の各骨が前方にズレていますと各内臓の機能低下を意味しますが、歯の咬み合せのバランスをとりますと脳脊髄液の圧により背骨を正常な位置に戻すものです。

正常な位置に戻ることにより、内臓も正常に働き内臓から分泌されるホルモンも正常に分泌されるものです。

ところが外的障害を受けますと頭蓋硬膜の緊張をおこしますと頭蓋骨の各骨の動きが悪くなり、そしてさらに体全体が緊張をおこし、さらに悪くなると足は引きずって歩く様になるだけでなく脳脊髄液の流れも悪くなるものです。

病気をおこしている人は必ず首の骨は直か又は後方湾曲で背骨は前方にズレをおこしています。

外的障害を受けていない人は上下の歯を少し強めで咬みますと、咬んでいる間だけ首の骨は生理的湾曲になり、各背骨は前方にズレていたものが後方にさがるものです。後方にさがりますと血流・脳脊髄液の流れがよくなり体に血液が流れて暖かく感じるものです。

上下の歯を咬むのを止めますと又元に戻るものです。

その為に姿勢及び顎関節症を治し上下の歯の咬み合せのバランスをとりますと上下の歯で咬まなくても常に首の骨は生理的湾曲、背骨は正常な位置に常に保ってかかる事になります。

外的障害を受けていますと上下の歯を咬んでも無反応です。

病気をおこしている人 又 うつ病、パニック障害、精神的障害の人は必ず背骨は前方にズレているものですが背中の中半分つまり腰椎の骨、胸椎の骨の下半分の骨 正常に戻りますと治りにくい病気であってもアトピーであっても、うつ病、パニック障害、精神的障害の人も病気の峠を越えたと思ってもいい位です。

但し 90%です。

外的障害を受けている人はそれを除去すれば頭蓋硬膜の緊張がとれるものです。

外的障害、つまり体に合わない薬を服用している、体の関節等にチタンの金属を入れている人、チタンの金属は電磁波の中断基地になる様なものです。人工歯のインプラントの歯は 1 回でも咬めば頭をどこかにぶつけた状態と同じで、頭蓋骨に衝撃を与えるものです。それも体重以上の力で咬むもので、それを 1 日何百回以上の衝撃を与えるものです。又 歯の矯正治療の際に頭蓋硬膜の緊張をおこし、呼吸に合わせて頭蓋骨の骨も屈曲・伸展と動けなくするものです。電磁波も同じです。

若いスポーツマンの人は外的障害を受けても余り感じないものですが、年齢を増えれば段々と体の不調に感じてくるものです。

体の弱い人は最初から体の不調を訴えるのものです。この様に血液・脳脊髄液の流れが悪くなりますと弱い電磁波でも感受してより一層の体の不調をきたすものです。